

令和4年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	8	学校名	沼津特別支援学校伊豆田方分校	記載者	長谷川 裕己
------	---	-----	----------------	-----	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
安全	生徒の自主的な行動につながる防災教育の取組	<ul style="list-style-type: none"> 在宅時、通学途上も含め、発災時に自分で判断して行動したいと答える生徒80%以上 在宅時、通学途上も含め、発災時の避難行動等について、家族内で確認したり、防災意識をもつようになった保護者80%以上 在宅時、通学途上も含め、発災時の具体的な行動力に結びつける防災教育を行なっている教員80%以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 3年間の学習の積み上げにより、防災ハンドブックが出来上がることは素晴らしい。 生徒自身が登下校中の安全を気にするようになった。 災害はいつ発生するか予測不能。その時に備えての学習を今後も続けてほしい。 居住地域の防災訓練への参加ができると良い。
安全	生徒の意思表出や行動力につながる自尊感情を高めるための生徒指導や人権教育の取組	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の良さが分かり、自分の意見や考えをもって行動する力がついてきた。」と答える生徒と保護者80%以上 生徒への働きかけの前に、「あなたはどう思う？」を意識してやりとりをしている教員80%以上 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士が自分の考えを伝えたり、友達の意見を取り入れたりしながら、よりよい考えをもてるようになった。
安全	道徳教育全体計画に沿った道徳教育の実践	<ul style="list-style-type: none"> 特別な教科「道徳」での学びを生活の中で生かしている生徒80%以上 特別な教科「道徳」での学習評価を生徒理解に生かしている教員80%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 日々の学習や多くの交流活動を通して、人を尊重する気持ちや人に対する思いやりの心を育ててほしい。
安全	生徒が心や体の健康等の自己管理能力の向上を図る指導への取組	<ul style="list-style-type: none"> 「保健指導」や「性の指導」等で学んだことを、生活の中で生かしている生徒80%以上 生活の中で生かす力につながる視点から、「保健指導」や「性の指導」等を実践した教員80%以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生の指導は難しいイメージもあるが、人権や道徳とも絡めながら学んでいけると良い。 高等部は思春期の難しい年頃でもある。専門家を交えての学びの機会にも期待したい。

様式第5号

専門	学びの価値や成長を実感できる授業研究や公開研究会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・学び、考えることが楽しいと答える生徒 80%以上 ・生徒の考える姿を引き出す授業力を高めたと感じる教員 80%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃担っている役割や普段できていることを評価し、一人一人を認めてあげてほしい。
専門	3年間を見通した計画の中で、学習評価を生かした作業学習と職業科の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・作業学習や職業等、学校で身に付けた力を職場実習で発揮していると答える生徒 80%以上 ・「就労しながら豊かに生活する将来の姿」を見据えた目標を設定し、働きかけや学びのフィードバックについての支援を意識している教員 80%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・将来像を思い描くことは大事。朝から夕方まで、一日を通して働くカリキュラムも検討できると良い。 ・一つひとつの学習活動に、生徒自身が意義や価値を感じられるよう、分かりやすい説明や実感できる体験を用意したい。
専門	授業で活用できるアプリ等の紹介とICTを活用した授業の実践とその発信	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの情報活用能力が向上したと答える生徒及び教員 80%以上 ・教育実践全般の成果について、HP等での発信、各教員年1回以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの環境整備や活用が進んでいる。 ・レジアプリの活用はとても良い。
連携	田農との共同授業、交流授業等の計画的な実践とその成果の情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・田方農業高校との共同学習、行事に魅力を感じる生徒 80%以上。 ・将来につながるコミュニケーション力の育成の場として、田農生との共生・共育の良さを生かす働きかけをしている教員 80%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な交流活動によりコミュニケーション能力の向上が期待できる。 ・田方農業高校という環境を最大限に利用できると良い。 ・様々な交流事業を今後も続けていってほしい。
連携	的確な進路等の個別の支援のために必要な、ケース会議、移行支援会議の実施。そのための関係機関、地域人材の活用と工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性のある生徒に対するケース会議等の実施等 100% ・校内（保護者を含む）外の人材活用や連携によって得られた情報が、教育活動に生かされていると感じる教員 80%以上 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の的確な進路選択を支援してほしい。 ・福祉事業所とも、見学や連携をきっかけにつなげておけると良い。 ・卒業後の経過について情報収集し、分析をするなどして指導につなげられると良い。
連携	伊豆の国特別支援学校と連携した地域支援についての体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆の国特別支援学校との情報連絡会 年2回 ・地区（小・中・高）の特別支援教育の体制づくりに向けた発信 年5回 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学校の特徴や強みを生かしつつ、協力を続けたい。 ・各学校の特徴を地域にアピールできると良い。
連携	福祉教育を窓口とした函南町との連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・函南町等、地域との共同活動や情報発信（函南町役場やゲートウェイとの連携）年12回以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・在学中から、事業所との連携も密にしておけると良い。

様式第5号

チーム	必要な情報共有や効率化につながる業務改善の仕組みを「働きがい」につなげる取組	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示板の活用等で必要な情報提供を図ったり、共有のために自ら情報収集を図ったりしている教員 80%以上 ・教材等データや業務に関わるノウハウを共有することで、業務の改善につなげたと感じる教員 80%以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や教職員など誰もが分かりやすく安心できる環境を整えていきたい。
チーム	学校経営計画に基づいた予算計画や予算執行を本校事務等と適切に情報共有しながら進める	<ul style="list-style-type: none"> ・本校事務との連携が図れていると感じる教員 80% ・本校事務からの直接情報提供の場 年6回以上 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・充実した学校運営のために予算案は大切。事務室との報・連・相を大切にしたい。